

やさしい ヘルプ

〈4〉

新幹線が滑るように。プラットホームに入ってきた。ホームにやや遅れて車両扉が開くと、慣れた手つきで駅員がスロープ板を渡した。

車内の多目的室まで笑顔で案内してくれる。車いす利用者に限らず、具合の悪い人や授乳、おむつ交換など、さまざまな用途で使えるスペースだ。すぐそばには、広くなつたバリアフリートイレもある。座席には車いす向けのスチールも確保されている。鉄道も設備改良でこうしたユーバーサルデザインへの配慮が

見られるようになった。

利用者が多い駅舎ではバリアフリー化の工事がほぼ終わって、慣れた手つきで駅員がスロープ板を渡した。

見られるようになつた。アフリーア化の工事がほぼ終わって、お年寄りや障害を持つ人々だけでなく、ベビーカーを使

改善進む鉄道バリアフリー

設備だけでなく人も

う入や大きな荷物を抱えた人や利用しやすくなつた。複雑な構造の駅舎では、分かりやすい表示も重要だ。駐車場や停車場からのアプローチも大変だ。車いす利用者などにとっては大変な手間となる乗車券の予約購入時の障害者手帳の提

の対応が向上したことだ。示義務など、ソフト面で改善も求められているが、こうしてほしいと思つ点もまだある。使う側も十分注意が必要だ。

（日本トラベルヘルパー協会 理事長・篠塚恭二）

鉄道の旅には交通工コロジ

ー・モビリティ財団が提供しているホームページ「ひるひる

くわでかけネット」が便利で、

全国のバリアフリー情報を探

べることができる。

この10年で鉄道サービスの

バリアフリー化は大幅に改善

され、特筆できるのは駅員ら

誰でも使える新幹線の多目的室



助けが大切だ。

車いす利用者の中には多くの鉄道ファンがいる。かつて「夢の超特急」と呼ばれた車両は代替わりの時を迎えて、技術の進歩はさらに夢を膨らませる。見るもよし、撮るもよし、さらには聞くもよしといふのが鉄道ファンだ。

国の大手私鉄は、高齢者や障害者が自立した生活を営むことができる社会を構築することが重要として、鉄道もバリアフリー化の重点項目の一つだ。体が不自由になつても、大好きな鉄道旅行はいつまでも自由にできる社会であつた。

（日本トラベルヘルパー協会 理事長・篠塚恭二）